

# 平成 2 1 年度事業報告

平成 2 1 年 4 月 1 日から平成 2 2 年 3 月 3 1 日まで

特定非営利活動法人日本 I D D M ネットワーク

## 1 事業の成果

平成 1 8 年度に策定した、次の 1 0 年に向けての 5 つのビジョン（将来像・目標） 医療・療養環境の充実 情報提供・相談体制の充実 社会への啓発 医療・福祉制度の充実 危機管理の整備に則って取り組んだ。

「医療・療養環境の充実」では、医療者、製薬企業と協力してインスリンポンプやカーボカウントのセミナーを実施し、全国各地で好評を博した。ニーズの高い事業として今後さらに充実していくことが望まれている。自己注射が出来ない高齢者の施設入所の課題解決に向けては関係団体との協議を開始した。また、平成 1 7 年から募金活動に取り組んできた「1 型糖尿病研究基金」は、阪神タイガースの岩田稔投手の 1 勝 10 万円寄付、定額給付金キャンペーン等により、本年度だけで 300 万円を超え、過去最高の寄付額となった。これに伴い、「治らない」から「治る」研究を進めるために第 3 回の研究費助成募集（総額 3 0 0 万円）を行ったところ応募件数も過去最高となった。その他、妊娠・出産、学校生活、家族の支援、就労、自己管理、薬の管理等といった様々な研究に協力（研究協力も過去最高件数であった）し、今後の医療・療養環境の充実に繋がっていくものと確信している。

「情報提供・相談体制の充実」では、成人発症患者や劇症患者の交流会、就職、学校生活、新型インフルエンザ、妊娠・出産、摂食障害、歯周病といったテーマ毎のセミナーを全国各地で開催した。これも過去最高の取り組み件数となった。また、『1 型糖尿病 [ I D D M ] お役立ちマニュアル P a r t 4 - 1 型糖尿病根治の道を拓く - 』の作成、年中無休の電話や電子メールでの相談対応等により、一層の情報提供・相談体制の充実に繋がった。

「社会への啓発」では、初めて一般社会に向けて大々的な啓発活動を展開した。9 月の愛フェス 2009（愛・地球博記念公園で開催）では 14500 人の来場者を対象に、11 月 14 日の世界糖尿病デーでは全国 6 大都市 10 カ所で約 300 万人の通行者を対象に 1 型糖尿病の周知を行った。愛フェス 2009 では、エアロビックス選手の大村詠一さんのトークのほか、当法人のブースに多くの方々が訪れ、世界糖尿病デー時のアルタビジョン新宿では、待ち合わせの多くの若者等が大型ビジョンから流れる阪神タイガースの岩田稔投手のメッセージや注射を打つ女兒の C M に見入っており、「1 型糖尿病」の認知が一步前進したところである。

「医療・福祉制度の充実」では、20歳以上の患者への公的支援導入に向けて、当会創設以来ロビー活動を展開してきたが、依然として何の成果も得られないままである。世界糖尿病デーである11月14日に臨時総会を開催し、1型糖尿病が身体障害者福祉法の内部障害として位置づけられるよう活動を展開していくという方針を明確にし、今後取り組みを強化していくこととした。一方で、こども手当導入に伴う扶養控除及び配偶者控除制度の見直しの動きに対し、他団体と協働して短期間で集中的にロビー活動を展開し、19歳以上の扶養控除制度及び配偶者控除制度が存続となったのは今年度の最大の成果である。

「危機管理の整備」では、新型インフルエンザの発生に伴い、いち早く対応マニュアルを防災NPOや専門医等と協働で作成し、セミナー、マスコミ、ホームページ等で関係者に周知した。また、同ワクチンの優先接種にも国へ意見を述べる等、迅速な取り組みを展開し、大きな混乱はなかった。

以上のような取り組みにより、本年度は平成7年の会創設以来最大の事業量（2000万円を超える決算額）となり、理事長、副理事長及び専務理事の三役がボランティアで行える業務量の限界を超える水準に達した。そのため、2人の非常勤職員を雇用したが、常勤採用には至らなかった。理事長が愛知県、副理事長兼事務局長が佐賀県、専務理事が千葉県在住で、3名とも別に本業を持ちながらの職務であるため、役員間や事務局との意思疎通が十分とは言えず、コミュニケーション不足等による事務の非効率性は残ったままである。新しい公共を担うセクターとして、今後は業務のマニュアル化の徹底、役員・事務局員会議の増等で業務の質をさらに高めていかななくてはならない。

一方で、全国患者会代表者会議、リーダー養成京都会議、全国各地でのイベント、コンサルティング等の結果として、地域患者・家族会と全国組織である日本IDDネットワークとの役割分担の方向性が見えてきたところである。

本年度は、通常総会に加えて臨時総会を2回も開催する等、まさに模索とチャレンジの年であった。

平成22年度は、平成21年度の経験をいかし“救う”“繋ぐ”“解決”の3つのステージで関係者の“参加”のもと、全国組織としての優先課題に重点対応する方針に至ったところである。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
ネットワークの拡大・支援	<p>カーボカウントとインスリンポンプのセミナーを昨年度に引き続き開催した。</p> <p>「1型糖尿病 先生方と患者・家族との連絡会～楽しい学校生活に向けて～」をつぼみの会三重、国立大学法人東京学芸大学と共催で開催した。</p> <p>静岡県つぼみの会総会で井上龍夫理事長が「1型糖尿病の根治に向けた先進医療の研究開発の現状」について講演を行った。</p> <p>特定非営利活動法人DMユース佐賀の患者・家族の集いで岩永幸三副理事長が当法人の取り組みの紹介や医療保険に関する意見交換を行った。</p>	7月5日	沖縄市	5人	患者及びその家族等 64人	926
		12月12日	川崎市	5人	92人	
		2月20日	鹿児島市	5人	63人	
		8月26日	津市	14人	96人	
		11月1日	静岡市	2人	50人	
情報収集提供・政策提言	<p>子ども手当導入に伴う扶養控除及び配偶者控除制度の見直しの動きに対し、JPA（日本難病・疾病団体協議会）や特定非営利活動法人佐賀県難病支援ネットワークと協働して、国や与党に対して働きかけを行った結果、19歳以上の扶養控除制度及び配偶者控除制度はとりあえず存続となった。</p> <p>20以上の患者支援策の実現に向けて、JPA（日本難病・疾病団体協議会）と協働する等して、国や国会議員に対して働きかけを行った。</p> <p>全国患者会代表者会議を開催し、20歳以上の患者支援策をはじめとして、全国組織と地域組織がそれぞれなすべきこと等を議論した。</p>	11月～12月	東京都 佐賀市 外	1人	患者及びその家族等 60000人	2008
		通年	札幌市 東京都 佐賀市	3人	60000人	
		6月27日～28日	大阪市	6人	24人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
情報収集提供 ・政策提言	<p>「1型DMの医療費の仕組みを知ろう！」を昨年度に引き続き開催した。</p> <p>「新型インフルエンザワクチンの接種について」厚生労働省へ意見を述べ、同ワクチンの優先接種に関する説明会に参加し、国の今後の新型インフルエンザ対策について(ワクチン接種の基本方針、同ワクチンの優先接種の対象とする基礎疾患の基準等)の情報をホームページ等で発信した。</p> <p>朝日新聞グローブの『「10年遅れ」というデバイス・ラグ』の項に井上龍夫理事長が、CGM(持続血糖測定器)で最新式の機種が使えないことやインスリンポンプが普及しないことに関して「日本が世界から取り残される」という危機感を表明したことが掲載。</p> <p>㈱サンリオ様の協力を得て、ロシュ・ダイアグノスティックス㈱様から提供いただいた血糖測定器等を入れる「キティちゃんポーチ」等を、患者・家族へ配布した。</p> <p>香川県主催のNPOと行政の協働推進研修会で「協働現場において行政職員に求められる姿勢とは～県民がやる気になる行政職員を目指して～」と題した講演並びにNPOマネジメント講座(運営編)で「活動基盤の強化と他セクターとの連携を目指して～NPO活動をより充実させるために～」と題した講演を岩永幸三副理事長が行った。</p> <p>久留米大学主催の公開講義「新・市民参加のまちづくり」で「CSO(市民社会組織)と行政との協働～双方の現場で実践して思うこと～」と題した講演を岩永幸三副理事長が行った。</p>	5月9日 10月3日	大阪市 熊本市	4人 4人	患者及びその家族等 30人 22人	
		9月～	東京都 佐賀市	2人	60000人	
		3月31日	安城市	1人	60000人	
		通年	佐賀市	2人	60000人	
		7月24日	高松市	1人	90人	
		12月4日	久留米市	1人	52人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
情報収集提供・政策提言	<p>ファンドレイジングネット(特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会運営)のファンドレイザー奮闘記に岩永幸三副理事長が当法人の活動内容等を情報発信した。</p>	3月22日	佐賀市	1人	患者及びその家族等 60000人	
	<p>その他、日本外来小児科学会年次集会、国際シンポジウム「中枢神経系の再生医学」、日本先進糖尿病治療研究会等で、情報収集や情報発信を行った。</p>	8月29日 -30日 9月19日 12月5日 外	さいたま市 東京都 豊中市 外	6人	60000人	
調査研究	<p>1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[1DDM]お役立ちマニュアルPart4-1型糖尿病根治の道を拓く-」を5000部作成し配布。</p>	通年	東京都 大磯町 安城市 佐賀市外	6人	患者及びその家族等 60000人	5131
	<p>1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[1DDM]お役立ちマニュアルPart1」を2000部増刷し配布した。</p>	6月～	佐賀市外	2人	60000人	
	<p>1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[1DDM]お役立ちマニュアル」Part1～4までを紹介したチラシを10000部作成し、配布した。</p>	2月～	佐賀市外	5人	60000人	
	<p>災害啓発セミナーを昨年度に引き続き開催した。今回は地震に加えて新型インフルエンザ対策も内容に加えた。</p>	9月27日	新潟市	5人	16人	
	<p>災害時要援護者避難訓練(特定非営利活動法人佐賀県難病支援ネットワーク主催)に講師として、山本康史理事と森地一夫会員が招聘され、協力を行った。</p>	11月22日	佐賀市	3人	83人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	佐賀市外	2人	患者及びその家族等 60000人	
	高度医療評価会議や障・臓移植研究会に参加する等、臓移植の課題解決策を探った。	通年	東京都宇都宮市外	2人	60000人	
	以下の調査・研究等に協力を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルス〔性と妊娠・出産に関する健康〕に関する支援マニュアルの開発」(田中佳代久米大学医学部看護学科母性看護学講師)</li> <li>・「1型糖尿病を持つ子どもの学校生活を支援するための教育プログラムの開発」(竹鼻ゆかり東京学芸大学養護教育講座准教授)</li> <li>・「病児を育む家族を支援する『地域連携パスを志向した協働型家族支援プログラム』の開発」(中野綾美高知女子大学看護学部小児看護学教授外)</li> <li>・「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに応える職場と地域の取組状況に関する調査」(春名由一郎独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター)</li> <li>・「病気の児童生徒への特別支援教育 病気の子どもの理解のために - 糖尿病 - 」(全国特別支援学校病弱教育校長会、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編)作成</li> </ul>	通年	東京都佐賀市外	8人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1型糖尿病の方の慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果に関する調査」(香川由美東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室)</li> <li>・「慢性疾患のお薬(インスリンを含む)管理の悩みと工夫に関する調査」(上野春香東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室)</li> <li>・「高額な医療費をお支払いの患者の方への実態調査」(東京大学医科学研究所先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門)</li> <li>・平成20年度の研究協力により完成した「隣島移植医療を希望する方に-あなたは、本当に移植を希望しますか?-」(編著:畑中暢代東京大学医科学研究所特任研究員)を希望者に配布した。</li> <li>・「自治体のNPO振興策に関する日英比較調査」(財団法人全国市町村研修財団、特定非営利活動法人市民社会研究所)</li> </ul>					
シンポジウム ・患者家族交流会	<p>○2009年に岡山市で開催した第8回全国シンポジウムの日本IDDMネットワーク通信特集号を4000部発行した。</p>	5月12日	佐賀市外	7人	患者及びその家族等 60000人	1405

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
シンポジウム ・患者家族交流会	<p>〇1型糖尿病を考える全国シンポジウム～新しい医療技術がもたらす1型糖尿病治療の進歩～を開催した。</p> <p>&lt;全体会&gt;</p> <p>「持続血糖測定器(CGM)とは?」 村田敬独立行政法人国立病院機構京都医療センター糖尿病センター医師</p> <p>「脳内膵移植～生活にあわせてインスリンを打ち分けられるようになるう～」 黒田暁生大阪大学医学部附属病院内分泌・代謝内科医師(1型糖尿病患者)</p> <p>日本IDDMネットワークの取り組み 井上龍夫理事長</p> <p>「幹細胞を用いた膵細胞の再生医学研究の現状」 糸昭苑熊本大学発生医学研究所教授</p> <p>「インスリンポンプ」 広瀬正和大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室医師</p> <p>「低血糖の効果的な予防法」 坂根直樹独立行政法人国立病院機構京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室室長</p> <p>&lt;分科会&gt;</p> <p>・第1分科会 「共に語ろう 糖尿病を持つ女性の性と妊娠・出産～糖尿病女性が、看護職者が思うこと～」 和栗雅子大阪府立母子保健総合医療センター母性内科副部長</p> <p>・第2分科会 「カーボカウントとインスリンポンプ療法」 川村智行大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室講師</p> <p>・第3分科会 「高齢1型糖尿病患者の交流会」 大石まり子大石内科クリニック院長 日本糖尿病学会専門医</p>	1月30日	京都市 (ひと・まち交流館 京都)	27人	患者及びその家族等 294人	
		1月31日	京都市 (ひと・まち交流館 京都)	9人	34人	
					10人	73人
				11人	22人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
関係団体との連携	国際患者団体連合 (IAP0)、日本製薬工業協会、ヘルスケア関連団体ワークショップ特定非営利活動法人日本せきずい基金等と医療機関、研究機関、行政、企業等との連携、協働等について意見交換等を行った。	通 年	東 京 都 外	4人	患者及びその家族等 60000人	225
普及啓発	<p>「新看護概説(第4版)」(編集:采女智津江文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課調査官等)に当法人HP掲載の1型糖尿病の概要が掲載。</p> <p>「看護教諭のための学校保健(第9版)」(著者:采女智津江文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課調査官等)に当法人HP掲載の1型糖尿病の概要が掲載。</p> <p>阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対巨人戦、阪神対広島戦)に協力し、マスコミ7社に取り上げられ、1型糖尿病の啓発や1型糖尿病研究基金の認知に繋がった。</p> <p>「患者と作る医学の教科書」(編著:ヘルスケア関連団体ネットワークの会&amp;「患者と作る医学の教科書」プロジェクトチーム)に当法人が執筆した「1型糖尿病」が掲載。</p> <p>愛フェス2009(ファンドレイジングイベント)に参加し、1型糖尿病の周知活動を行った。</p>	<p>4月6日</p> <p>4月6日</p> <p>7月31日 8月2日 9月18日 9月20日</p> <p>8月15日</p> <p>9月5日 -6日</p>	<p>佐 賀 市</p> <p>佐 賀 市</p> <p>西 宮 市 西 宮 市 西 宮 市 西 宮 市</p> <p>安 城 市 佐 賀 市 和 水 町</p> <p>長久手町</p>	<p>1人</p> <p>1人</p> <p>4人 3人 4人 4人</p> <p>3人</p> <p>14人</p>	<p>患者及びその家族等 60000人</p> <p>60000人</p> <p>60000人</p> <p>60000人</p> <p>60000人</p>	2158

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	世界糖尿病デーに全国6大都市10カ所(札幌駅前、仙台駅前、新宿駅東口、銀座4丁目交差点、渋谷駅八チ公前交差点・センター街入り口、渋谷駅前、渋谷八チ公前、名古屋駅前、道頓堀、福岡天神)の大型ビジョンで1型糖尿病啓発用15秒CMを約600回流した。このうち、新宿駅東口のアルタビジョン新宿と道頓堀のトンポリステーショントンポリリバーサイドビジョンでは阪神タイガースの岩田稔投手が出演する4分間の特別CMも放映することができた。	11月14日	札幌市 仙台市 東京都 名古屋市 大阪市 福岡市 佐賀市	7人	患者及びその家族等 60000人	
	「1型糖尿病研究会in千葉-1型糖尿病のコントロールの極意-」と題して医療者向けのセミナーを初めて開催した。	11月22日	千葉市	6人	52人	
	有明佐賀空港マイエアポート宣言事業所に登録し、有明佐賀空港のホームページに1型糖尿病と1型糖尿病研究基金を紹介。	12月14日 ~	佐賀市	2人	60000人	
	デイリースポーツの特集記事「一病息災 岩田稔 1型糖尿病との闘い」に2回に渡って当法人が取り上げられ、1型糖尿病や同研究基金について紹介。	12月20日 12月22日	安城市	1人	60000人	
	“安全運転が寄付になる”新しい自動車保険加入窓口『DOZO』(株)ドウゾ)の寄付先に当法人が選定され、同社ホームページに1型糖尿病や同研究基金について紹介。	3月20日 ~	東京都	3人	60000人	
療育相談	電子メール(129件)、相談電話(87件)ホームページ(17350件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	佐賀市 和水町 外	8人	患者及びその家族等 60000人	934

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
療育相談	「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」を特定非営利活動法人みえ防災市民会議及び独立行政法人国立病院機構三重病院(庵原俊昭院長)と協働して10000部作成し配布した。	6月16日 ~	東京都 津市 伊勢市 西宮市 佐賀市外	5人	患者及びその家族等 60000人	
	「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」が中日新聞に取り上げられ、新型インフルエンザ対策の周知に繋がった。	9月11日	伊勢市 西宮市	2人	60000人	
	「新型インフルエンザ対策-糖尿病または血糖値が高い人へ-」(平成21年度厚生労働科学研究)を専門医と山本康史理事等で作成しホームページ等で周知を行った。	9月~	東京都 伊勢市 外	2人	60000人	
	1型糖尿病 成人患者・成人発症患者の交流会を昨年度に引続き開催した。	7月4日 10月25日	沖縄市 札幌市	6人 4人	10人 15人	
	劇症1型糖尿病患者の交流会を初めて開催した。	7月11日	東京都	4人	10人	
	就職についての交流会を初めて開催した。	7月25日	東京都	4人	5人	
	学校生活についての交流会を初めて開催した。	8月2日	東京都	4人	3人	
	「重症化しやすい人(ハイリスク者)~糖尿病・ぜん息・がん・妊婦・高齢者・乳幼児~とその家族のための新型インフルエンザ講座」を特定非営利活動法人みえ防災市民会議等と共催で初めて開催した。	10月17日	名古屋市	5人	49人	
	1型糖尿病を持つ女性と看護職者のためのセミナー「共に語ろう糖尿病を持つ女性の性と妊娠・出産~糖尿病女性が、看護職者が、思うこと~」を久留米大学医学部等の研究班と共催で昨年度に引き続き開催した。	10月17日	東京都	4人	51人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
療育相談	<p>「糖尿病とともに生きる～1型糖尿病の摂食障害の合併を通して～」を初めて開催した。</p> <p>「1型糖尿病と歯周病のセミナー」を初めて開催した。</p> <p>高齢患者に対する介護職員のインスリン注射等について特定施設事業者連絡協議会と意見交換を行い課題解決に向けて連携して取り組むこととした。</p>	<p>10月31日</p> <p>12月6日</p> <p>3月12日</p>	<p>東京都</p> <p>東京都</p> <p>東京都</p>	<p>7人</p> <p>5人</p> <p>3人</p>	<p>患者及びその家族等 39人</p> <p>29人</p> <p>60000人</p>	
会報発行	<p>会員の情報交換等のため、会報を3回、各4000部発行した。</p>	<p>4月25日</p> <p>7月28日</p> <p>1月29日</p>	<p>佐賀市外</p>	<p>7人</p>	<p>患者及びその家族等 60000人</p>	873
1型糖尿病研究基金(特別会計)	<p>第1回及び第2回の1型糖尿病研究基金助成研究の講演会を開催した。</p> <p>&lt;講演&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1型糖尿病の遺伝子治療を可能にする膵臓特異的遺伝子デリバリーシステムの開発」 松崎高志大阪大学産業科学研究所特任助教</li> <li>・「膵島移植におけるドナー特異的調節性T細胞を用いた免疫寛容誘導」 杉本光司徳島大学大学院消化器・移植外科研究員</li> </ul> <p>1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を支援する「1型糖尿病研究基金」の第3回助成金公募を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集期間：1月4日～4月16日</li> <li>・助成総額300万円(2件程度助成予定)</li> </ul> <p>日経BP社の個の医療メールマガジンを配信され、応募件数は過去最高になる。</p>	<p>5月30日</p> <p>1月4日～</p>	<p>東京都</p> <p>東京都 安城市 佐賀市 外</p>	<p>4人</p> <p>5人</p>	<p>患者及びその家族等 33人</p> <p>60000人</p>	938

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	阪神タイガースの岩田稔投手から1勝10万円(計70万円)が当研究基金に寄付され読売新聞、朝日新聞、産経新聞、時事通信スポーツ新聞等各誌に取り上げられ、1型糖尿病の啓発にも繋がった。	11月21日	西宮市	1人	患者及びその家族等 60000人	
	定額給付金による募金活動を行った。 募金総額: 76件 543,500円	4月-11月	佐賀市	1人	60000人	
	全国各地で開催したセミナー等で募金活動を行った。 募金総額: 291,970円	5月9日 - 2月20日	全国各地	10人	60000人	
	タンブラーを作成し募金活動(1個1000円の寄付要請)を行った。 配布個数: 538個	通年	全国各地	10人	60000人	
	コカ・コーラグループ各社及び(株)伊藤園のご協力により、難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置することとし、飲料売上額の一部が当研究基金への寄付となった。 設置目標台数: 100台 実績台数: 2台	1月15日 ~	千葉市 佐賀市	3人	60000人	
	“安全運転が寄付になる”新しい自動車保険加入窓口『DOZO』((株)ドウゾ)の寄付先に1型糖尿病研究基金が選定された。ドウゾ社を通じてチューリッヒ社の自動車保険に加入し1年間無事故だった場合、1人1200円分の寄付先の候補となる。	3月20日 ~	東京都	3人	60000人	
	当研究基金の趣意書を5000部増刷(改訂)し、配布した。	1月~	佐賀市 外	3人	60000人	
	フジテレビ系列九州沖縄8局ネットドキュメント九州『ノーリミット~1型糖尿病のエアロピックチャンピオン』で当研究基金について紹介。	1月30日 - 2月5日	佐賀市 外	2人	60000人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	上記のほか、有明佐賀空港のホームページや阪神タイガースの岩田稔投手関連記事等でも当研究基金を紹介。	通年	安城市 佐賀市 外	3人	患者及びその家族等 60000人	

(2) その他の事業 該当なし

平成21年度貸借対照表総括表

平成22年3月31日現在  
 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク  
 (単位:円)

科 目	合計	一般会計	1型糖尿病研究 基金特別会計
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	15,163,695	10,706,651	4,457,044
未収会費	0	0	0
未収入金	265,000	265,000	0
流動資産合計	15,428,695	10,971,651	4,457,044
2 固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資 産 合 計	15,428,695	10,971,651	4,457,044
負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	335,510	70,510	265,000
前 受 金	32,500	32,500	0
短期借入金	0	0	0
預 り 金	2,932	2,932	0
流動負債合計	370,942	105,942	265,000
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	370,942	105,942	265,000
正味財産の部			
前期繰越正味財産	14,793,992	12,837,629	1,956,363
当期正味財産増加額	263,761	-1,971,920	2,235,681
正味財産合計	15,057,753	10,865,709	4,192,044
負債及び正味財産合計	15,428,695	10,971,651	4,457,044

## 平成21年度財産目録

平成22年3月31日現在  
 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク  
 (単位:円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高(一般会計)	181,448		
現金 現金手許有高(特別会計)	145,770		
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	3,315,448		
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(特別会計)	4,135,694		
普通預金 百五銀行員弁支店(一般会計)	0		
普通預金 三井住友銀行佐賀支店(一般会計)	390		
郵便貯金 福岡貯金事務センター(一般会計)	202,615		
郵便貯金 福岡貯金事務センター(特別会計)	175,580		
郵便貯金 郵便貯金総合通帳・ばるる(一般会計)	6,750		
定期預金(1年) みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	3,000,000		
定期貯金(1年) ゆうちょ銀行(一般会計)	4,000,000		
未収会費(一般会計)	0		
未収入金(一般会計)	265,000		
流動資産合計		15,428,695	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			15,428,695
負債の部			
1 流動負債			
未払金(一般会計)	70,510		
未払金(特別会計)	265,000		
前受金(一般会計)	32,500		
預り金(一般会計)	2,932		
短期借入金	0		
流動負債合計		370,942	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			370,942
正味財産			15,057,753

注) 定期預金及び定期貯金の合計額7,000,000円が東京事務所開設準備積立金である。

平成21年度収支計算書総括表

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで  
特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

(単位:円)

科 目	合計	一般会計	1型糖尿病研究基金特別会計	備 考
収入の部				
1 会費収入	1,340,000	1,340,000	0	
・正会員会費収入	440,000	440,000	0	
・賛助会員会費収入	205,000	205,000	0	
・その他の会員会費収入	695,000	695,000	0	
2 寄付金収入	11,938,473	8,765,798	3,172,675	
・一般寄付金収入	8,765,798	8,765,798	0	
・1型糖尿病研究基金寄付金収入	3,172,675	0	3,172,675	
3 助成金等収入	7,616,400	7,616,400	0	
・助成金収入	3,900,000	3,900,000	0	
・負担金収入	3,716,400	3,716,400	0	
4 繰入金収入	0	0	0	
・一般会計繰入金収入	0	0	0	
5 繰出金収入	1,000,000	1,000,000	0	
・東京事務所開設準備積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	
6 雑収入	406,467	406,037	430	
・受取利息	3,002	2,572	430	
・雑収入	403,465	403,465	0	
当期収入合計(A)	22,301,340	19,128,235	3,173,105	
前期繰越収支差額	6,803,992	4,847,629	1,956,363	
収入合計(B)	29,105,332	23,975,864	5,129,468	
支出の部				
1 事業費	13,656,347	13,656,347	0	
・ネットワークの拡大・支援	925,621	925,621	0	
・情報収集提供・政策提言	2,007,489	2,007,489	0	
・調査研究	5,130,989	5,130,989	0	
・シンポジウム・患者家族交流会	1,404,223	1,404,223	0	
・関係団体との連携	224,628	224,628	0	
・普及啓発	2,157,108	2,157,108	0	
・療育相談	933,571	933,571	0	
・会報発行	872,718	872,718	0	
・1型糖尿病研究助成金	0	0	0	
2 管理運営費	7,358,732	6,421,308	937,424	
・人件費	768,150	678,900	89,250	
・管理費	6,590,582	5,742,408	848,174	
3 繰入金支出	0	0	0	
・1型糖尿病研究基金特別会計繰入金支出	0	0	0	
・東京事務所開設準備積立金支出	0	0	0	
4 予備費	0	0	0	
・予備費	0	0	0	
当期支出合計(C)	21,015,079	20,077,655	937,424	
当期収支差額(A) - (C)	1,286,261	-949,420	2,235,681	
次期繰越収支差額(B) - (C)	8,090,253	3,898,209	4,192,044	

## 役員名簿

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

特定非営利活動法人日本IDDネットワーク

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	井上 龍夫	愛知県安城市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	岩永 幸三	佐賀県佐賀市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	山上 雅晴	千葉県千葉市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	香川 由美	東京都文京区	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	三部 庫造	富山県砺波市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	山本 康史	三重県伊勢市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	陶山えつ子	熊本県玉名郡和水町	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
理事	後藤 昌史	宮城県仙台市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし
監事	古賀 敏久	福岡県久留米市	21年4月1日 ~ 22年3月31日	該当なし

平成21年度の社員のうち10人以上の者の名簿

平成22年3月31日現在

特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

名 称	住 所 又 は 居 所
け や き の 会	宮城県名取市
特定非営利活動法人補食の会	富山県砺波市
つぼみの会愛知・岐阜	愛知県安城市
大 阪 く る み の 会	大阪府茨木市
大 阪 杉 の 子 会	大阪府大阪市
岡 山 つ ぼ み の 会	岡山県岡山市
広 島 も み じ の 会	広島県広島市
特定非営利活動法人DMユース佐賀	佐賀県佐賀市駅前中央一丁目8番32号iスクエアビル3階市民活動プラザ内
D M 風 の 会	熊本県玉名郡和水町
堀 尾 拓 之	岡山県倉敷市